

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	甲状腺眼症に対するステロイドパルス療法のセット処方変更前後における消化器系イベント発生率の比較検討
研究機関名及び研究機関の長 (試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	(担当科)薬剤部 (職名)薬剤部長 (氏名)大西正文
試料・情報の利用目的及び利用方法	〔利用目的〕ステロイドパルス療法は活動期甲状腺眼症の治療法の一つです。治療に用いる methyl prednisolone (mPSL)の副作用予防目的で、以前は骨粗鬆症予防のリセドロン酸を週1回、消化性潰瘍予防のファモチジン、レバミピドを治療期間中連日内服していました。しかし、患者負担軽減目的でリセドロン酸の処方を中止し、mPSLの投与日のみファモチジンを混注するよう処方変更しました。そこで、この処方内容の変更前後における消化器系副作用(胃部不快感、制酸薬の追加、便鮮血陽性反応、消化器内科への診察依頼など)の発生率を比較検討します。 〔対象となる患者さん〕2016年1月から2022年7月に、当院にてステロイドパルス療法を実施した甲状腺眼症の患者さん。 〔研究期間〕研究実施承認日 ~ 2023年3月31日 〔利用方法〕電子カルテを用いてデータ収集を行います。 〔他の機関へ提供される場合はその方法〕なし
利用又は提供する試料・情報の項目	情報：電子カルテのデータ(薬剤投与歴、採血データ、既往歴など)
試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	非該当
提供する試料・情報の取得の方法	非該当
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究機関名・研究責任者名	非該当

利用する者の範囲	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年1月31日までにメールまたは電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。 shibata.yuuichi.414@mail.aichi-med-u.ac.jp
問い合わせ先	愛知医科大学病院 薬剤部 担当者:(職名)薬剤師 (氏名)柴田 祐一 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線:34030)